

**第7回 浜松市立中学校における
「学校に着ていく服」のあり方検討委員会**

次 第

日 時：令和7年9月1日(月) 14時～
会 場：浜松市教育委員会 教育委員会室

1 開 会

2 学校教育部長あいさつ

3 委員及び有識者自己紹介

4 協 議

(1) 「学校に着ていく服」の実現に向けたロードマップ（案）について

(2) (仮称)『学校に着ていく服』検討ガイドライン」の方向性について

5 その他

第8回開催予定 令和7年12月12日（金）14時～

【配布資料】

資料1_「学校に着ていく服」の実現に向けたロードマップ（案）

資料2_（仮称）『学校に着ていく服』検討ガイドライン」の方向性について

浜松市立中学校における「学校に着ていく服」のあり方検討委員会 名簿及び席次

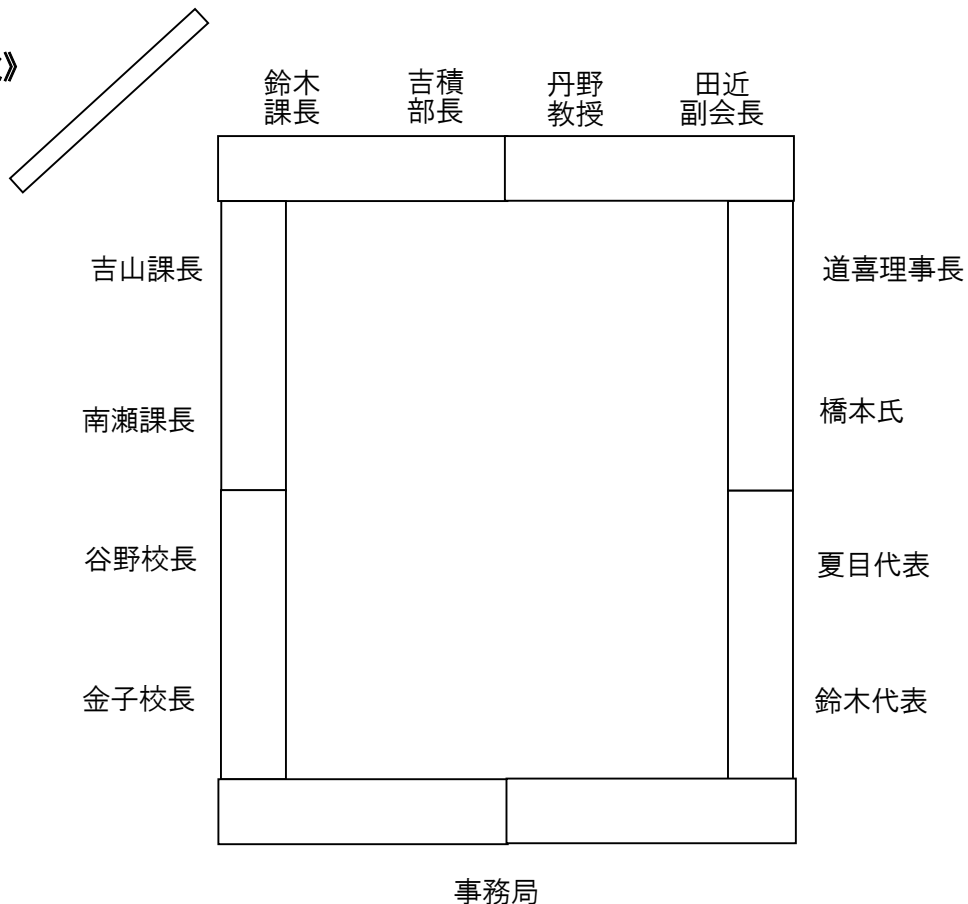
1 委 員

	所属・補職名	氏 名
委員長	学校教育部長	吉積 慶太
副委員長	学校教育部次長兼教育総務課長	鈴木 健一郎
委員	学校教育部指導課長	吉山 幸洋
委員	学校教育部教育支援課長	南瀬 悦司
委員	浜松市立竜禅寺小学校 校長	谷野 幸代
委員	浜松市立三ヶ日中学校 校長	金子 直由

2 有識者

	所属・職名	氏 名
学識経験者	静岡県立大学 国際関係学部国際関係学科 教授	犬塚 協太
学識経験者	東京都立大学 人文社会学部人間社会学科 教授	丹野 清人
保護者	浜松市P T A連絡協議会 副会長	田近 章敏
関係団体	(特非)浜松男女共同参画推進協会 理事長	道喜 道恵
関係団体	(公財)浜松国際交流協会 浜松市多文化共生センター	橋本 ソナイラ
関係団体	ミライ制服すすめ団 代表	夏目 はるな
関係団体	浜松トランスジェンダー研究会 代表	鈴木 げん

《席 次》



《「学校に着ていく服」の定義》

登下校や教育活動の場において生徒個人が選択・着用する服装

《「学校に着ていく服」の理念・目指す方向性》

理 念

全ての生徒が
安心できる
「学校に着ていく服」
の実現

目指す方向性

- ①「学校に着ていく服」は、制服を含めて、生徒が安心して学校に着ていける服の選択肢を増やすことを目指す。
- ②各学校の方針等は、生徒主体で検討し決定する。
- ③「学校に着ていく服」は、生徒個人が選択するものであり、他の人から強制されたり阻害されたりしない。
- ④子供の成長を支える大人たちが連携し、「学校に着ていく服」の検討や生徒一人一人の選択に寄り添い、支援していく。
- ⑤「学校に着ていく服」を通して、生徒は自分や他の人の人権が尊重されていること、多様性を認め合うことの大切さを実感できる。

「学校に着ていく服」の理念や目指す方向性を踏まえ、各主体（生徒・教職員・保護者・地域・教育委員会）に求められる取組を段階別に整理して「見える化」し、共有することを目的としたロードマップを作成

「学校に着ていく服」の実現に向けたロードマップ（案）

- ・ 主体別にどの段階でどのような取組が求められるのかを分かりやすく示すために、ロードマップ形式で整理
- ・ 上から順に取り組む、取組が完了しなければ次の段階に進めない、いつまでにやらなければならないという「縛り」を与えるものではない（状況や実情に応じて、取組の開始を前倒したり、段階をまたいで取組を継続したりすることも想定されるため）
- ・ 各取組の詳細については、「（仮称）『学校に着ていく服』検討ガイドライン」において示していく

	Stage 1_準備	Stage 2_検討	Stage 3_導入・見直し
生徒	<p>被服（制服）や人権・多様性への理解を深める。</p> <p>現在の制服について感じていること、考えていることを整理する。</p> <p>「学校に着ていく服」の理念・目指す方向性等を理解する。</p>	<p>自分の「学校に着ていく服」について、考える。</p> <p>他の人の「学校に着ていく服」の考えや意見を理解する。</p>	<p>自分や他の人の「学校に着ていく服」を認め合い、尊重する。</p>
教職員	<p>研修等を通して人権・多様性に関する理解向上を図る。</p> <p>教職員間で制服に対する認識・考えを共有する。</p> <p>「学校に着ていく服」の理念・目指す方向性等を理解し、教職員間で共通認識を図る。</p>	<p>生徒が「学校に着ていく服」について主体的に考える機会を設定する。</p> <p>学校の方針等を生徒主体で検討する場や仕組みを設定し、側面から支援する。</p> <p>検討状況を保護者や地域、学区内の小学校へ随時共有し、理解促進を図る。</p>	<p>生徒一人一人の「学校に着ていく服」の選択に寄り添い、支援する。</p> <p>方針等の検討経緯について、新入生やその保護者に周知する。</p> <p>方針等の見直しの必要性について、生徒主体で考える機会を設定する。</p>
保護者	<p>生徒（子供）が制服について感じていること、考えていることを理解する。</p> <p>「学校に着ていく服」の理念・目指す方向性等を理解する。</p>	<p>生徒（子供）の「学校に着ていく服」に対する考えを理解する。</p> <p>生徒主体の検討を見守り、学校の取組を支援する。</p>	<p>生徒（子供）の「学校に着ていく服」の選択に寄り添い、支援する。</p>
地域	<p>「学校に着ていく服」の理念・目指す方向性等を理解する。</p>	<p>生徒主体の検討を見守り、学校の取組を支援する。</p>	<p>生徒一人一人の「学校に着ていく服」の選択に寄り添い、支援する。</p>
教育委員会	<p>「学校に着ていく服」の理念・目指す方向性等について、理解啓発を図る。</p> <p>「学校に着ていく服」検討ガイドラインの周知を図る。</p>	<p>各学校の検討状況を把握し、必要に応じた助言を行う。</p> <p>検討の好事例を収集し、横展開を図る。</p>	<p>各学校の方針等の運用状況を把握し、必要に応じた助言を行う。</p>

《策定の目的》

生徒と教職員が「学校に着ていく服」の理念や目指す方向性を理解した上で、学校の方針等を生徒が主体となって検討していくことを目指し、検討にあたって必要な視点や検討の流れ、留意事項などを示すガイドラインを策定する。

《全体構成案》

- 1 策定の目的 ※背景を含めて
- 2 「学校に着ていく服」について
 - 定義と位置付け
 - 理念と目指す方向性
- 3 「学校に着ていく服」の検討の必要性
 - 子供の人権・多様性の尊重
 - ✓ 児童の権利に関する条約
 - ✓ こども基本法
 - ✓ 生徒指導提要（改訂版）
 - ・ 児童生徒の権利の理解
 - ・ 校則の運用・見直し
 - 制服に対するニーズへの対応
 - 経済的な負担軽減
- 4 検討にあたって必要な視点
 - 「学校に着ていく服」の理解
 - 現状や課題等の把握
 - 生徒が主体的に考え、安心して自分の意見を言える場や仕組みづくり
 - 保護者・地域の参画
- 5 検討の流れ
※参考となる流れをポイントを付して提示
- 6 留意事項
 - 校則の見直しとの関連
 - 方針等の周知・運用・見直し
- 7 参考
 - チェックリスト（生徒版・教職員版）

(仮称)「『学校に着ていく服』検討ガイドライン」の方向性について

《関係者への意見聴取》

生徒、教職員、保護者、関係団体等に対し、「学校に着ていく服」に関する意見を聴取し、ガイドライン案の作成に反映

- 「学校に着ていく服」に期待すること、不安に感じる事
- 生徒主体で検討するにあたり、大切にすべきこと など

《今後のスケジュール》

内 容 \ 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月			
ガイドライン作成	●素案の作成	→			●案の作成	→		●最終版の作成	→	完成公表
関係者への意見聴取		●意見聴取の実施 (生徒・教職員・保護者・関係団体等)			→		●意見聴取結果の公表	→		
検討委員会	●9/1《第7回》 方向性の確認	●素案に対する 意見聴取			→		●12/12《第8回》 ・意見聴取結果（概要）の報告 ・案に対する意見聴取			